評価の具体例

※ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 評価規準（B規準） | Bの状況に達していない場合の手立て例 |  | Aと見取る子どもの姿の具体例 |
| 生きものたんけんに 出かけよう | 【関・意・態】  生き物に興味・関心をもち，生き物探検の計画を立て，進んでかかわろうとしている。 | ・同じ生き物をさがしに行く友達と一緒に計画を立て関心を引き出す。  ・教師や友達と一緒に生き物さがしをする。  ・活動のきっかけとなるように，教師が生き物を教室に持ち込み，生き物への興味・関心を高めておく。 |  | ・虫かごや網，えさなど探検に必要なものを何日も前から準備し，探検の日を心待ちにしている。  ・生き物を傷つけないようにつかまえたり，なかなかつかまえられない友達にアドバイスや手助けをしている。 |
| 【思・表】  友達と協力しながら，生き物探検の準備をし，生き物の住んでいそうな場所を考え，見つけたり，つかまえたりすることができる。 | ・同じ生き物をさがしに行く友達と一緒に計画を立てるようにし，何が必要なのか意識できるようにする。  ・生き物を見かけた場所や特徴を想起させたり，図鑑などで調べたりし，生き物の住んでいそうな場所を予想させてから探す。予想が合っていたときにはほめ，考えたり調べたりすることのよさを価値づける。 |  | ・「サワガニは，水の流れているところにいるから靴が濡れそうだな。そうだ，長靴を持っていこう。」など，虫かごや網だけでなく生き物の生息場所にあった身支度や安全面も考えて計画を立てている。  ・保護者や地域の人から情報をもらい，さがしたい生き物を手際よく見つけたり工夫してつかまえたりしている。 |
| 【気付き】  生き物の住んでいる場所の特徴に気付いている。 | ・同じ生き物を見つけた友達の話を聞かせ，自分が見つけた場所と同じであることに気付かせたり，違う生き物を捕まえた友達の話を聞かせ，生き物によって住む場所が違うことに気付けるようにする。  ・単元を通して友達の飼育かごの様子をよく見させ，生き物の住む場所の特徴への気付きを促す。 |  | ・｢バッタは草を食べるから，草がたくさん生えているところにいるんだな。」など，生き物の住んでいる場所の特徴を生きものの特徴と合わせながらとらえている。 |
| かって みよう せわを しよう | 【関・意・態】  生き物の育つ場所・変化や成長のようすに関心をもって世話をし，繰り返しかかわろうとしている。 | ・生き物に名前をつけ，親しみをもたせる。  ・毎朝自分の健康観察と合わせて生き物の健康観察も行い，生き物の様子への関心を高める。 |  | ・毎日休み時間には，生き物を観察し，えさやりや水の噴霧など必要な世話を進んでしている。  ・休日には持ち帰り，家でも世話を続けている。 |
| 【思・表】  生き物の住んでいた場所の特徴を考えて，住みかをつくることができる。  生き物の世話を通して，気付いたことや発見したことを絵や文で表現することができる。 | ・つかまえた時の写真を見せたり，図鑑やネットを使って調べ，教師や友達と一緒に住みか作りを進める。  ・友達の飼育かごを観察させ，自分の生き物にあう住みかを見つけさせたり，同じ生き物の世話をしている友達の住みかを真似て作らせ，住みかの特徴をとらえることができるようにする。  ・教師と一緒に観察をし，観察の視点を与えながら表現を促す。 |  | ・生き物を捕まえた時の様子を想起しながら，住みか作りに必要な物を自分で考えて準備し，生き物に合った住みかを作っている。  ・世話を通して気付いたことや発見したことを日常的に教師や友達に伝えている。 |
| 【気付き】  生き物が命をもち，成長していることに気付いている。 | ・生き物を飼い始めたときの写真や観察カードと１～２週間後の写真や観察カードを比較し，変化や成長の様子に気付けるようにする。  ・観察のたびに，前回の観察したときと違っているところを見つけながら観察させるようにする。 |  | ・生き物の成長について，体の大きさや足の長さ，形などの大きさや長さを測ったり書き取ったりして具体的にとらえている。  ・「ぼくたちと同じように，生き物だってご飯を食べないと死んでしまうよ。だから毎日新しいえさをあげるんだ。」と，自分と生きものを対比させたり，同化させたりしながら命を自覚し大切にしようとしている。 |

評価の具体例

※ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| みんなに 見せよう 知らせよう | 【関・意・態】  わかりやすく伝えるための準備をしている。 | ・伝えるための方法をいくつか提示し，自分にできる方法を見つけさせ表現への不安を解消する。  ・生き物の世話を通して，驚きの場面や発見の場面を意図的に取り上げ，自覚させることで，誰かに伝えたいという気持ちを高めておく。 |  | ・伝えたいことがたくさんあり，伝える相手のことを考えながら表現方法を選んでいる。 |
| 【思・表】  継続して生き物を育て，わかったことや気付いたことを自分の言葉で自分なりに表現することができる。  生き物を大切に思い，これからどうするか相談したり，自分で決めたりすることができる。 | ・観察カードを手がかりにわかったことや気付いたことを教師と話しながら探していく。  ・観察するときに発見を記録する習慣をつけておく。  ・生き物をこれからどうするか，友達の話をよく聞いて，友達の考えから方法を選ぶ。 |  | ・「私のトカゲは，脱皮をするのに１週間もかかりました。途中で死んでしまうのではないかと心配しましたが，脱皮した後はとても元気になり安心しました。」など，具体的な数値を使ったり，その時の心情と合わせてわかったことや気付いたことを自分に合った方法で工夫しながら伝えようとしている。  ・生き物を飼い続けたいという気持ちをもちながら，生き物のためには自然の中で暮らすことが一番幸せなのではないかと考えている。 |
| 【気付き】  友達や異学年に教えてあげることの楽しさに気付いている。  毎日生き物の世話をできた自分の頑張りに気付いている。 | ・その子にあった表現方法を選んで練習させ，自信を持って発表できるようにする。  ・世話を頑張ってしていたことを，友達からメッセージカードなどで評価してもらう。  ・単元を通して，進んで世話をしていたときにはほめ，自信をつけさせる。 |  | ・休み時間など，様々な機会を利用していろいろな人に伝えたいという意欲を持っている。  ・自分の頑張りに自信をもつとともに，友達の頑張りにも気付き，素直にほめている。 |